

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	272100736		
法人名	社会福祉法人つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム安住の里		
所在地 (電話番号)	〒037-0104 青森県つがる市稲垣町豊川宮川143番地1 (電話) 0173-46-3100		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 10月 5日	評価確定日	平成 19年 11月 19日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 人, 常勤換算 9人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		780 円

### (4) 利用者の概要( 8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	87 歳	最低	78 歳
		最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾野病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域で生を全うする事が自然の姿」という前村長の思いが、住み慣れた地域で安心して介護を受けながら、生活出来る場としての施設を誕生させ現在に至っている。施設は特養と併設しているメリットを活かし、機能の活用や職員間の協力体制も良好であり、管理者はサ - ビス向上に前向きに取り組み、改善に対しても意欲的で、その思いが職員にも伝播し熱意が感じられる。各種記録やマニュアル等も整備されており、理念の具現化に日々取り組んでいる。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	薬品や注意が必要な物品については、保管場所を定めて施錠しており、危険な場面は回避されている。又、入浴については、夜間や回数の変更希望に対し、随時職員の体制を整備し、対応の方向で取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価を実施することにより、業務を見つめ直す良い機会として捉え、評価の意義や目的を全職員に伝え、評価内容の振り返りを実施している。自己評価の改善事項については、改善計画を作成してサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、参加メンバー - も行政・家族・地域代表者等固定化しつつある。施設の現況報告や課題・懸案事項の話し合い、地区や行政からの要望事項等、協力体制の確認が行われている。今後の対応として、家族の参加率を高める働きかけを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	面会や広報誌の発送等、折を見て家族の意見や要望の吸い上げを行っており、対応に努力している。又、苦情等は日々の関わりを強化する事で、小さな段階で解決出来るように努力しており、関係づくりが出来ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設特養に訪れた際に気軽に立ち寄ってくれたり、地域住民の方が旬の野菜や山菜、手作りのお手玉を届けてくれている。天候や希望に応じて外出や散歩の機会を多く持ち、地域の中に出掛けている。又、老人クラブの行事に参加したりする事で顔馴染みになっている方もあり、地区住民からも声を掛けられる場面も多い。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着のスタートを機に、併設施設の基本理念をベースに全職員でグループホーム独自の理念を作り上げ、施設内に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議やミーティング等で機会を捉えて確認し合い、全職員が共有している。又、全職員で理念を作りあげたことから、日々の介護の中に意見が反映されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	管理者は社協の会議に参加したり、同地区のグループホームの運営推進会議のメンバーとして活動、交流している。地元の中・高の生徒が授業の一環で訪問した後、放課後に気軽に立ち寄ってくれており、気軽に交流できる環境にある。施設入居者は老人クラブの行事に参加した経緯はあるものの、入居者の身体機能低下が進み、外出が困難になりつつあり、今後の課題として取り組みが必要と思われる。		地域との関係は良好に保たれております。今後は、地域交流をより一層推進するために自治会や町内会に加入する等、認知症に対する理解を深める普及活動が行われるよう期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の受け入れに対しては、評価の意義や目的を全職員に伝え、評価内容の振り返りを実施している。改善出来る部分については、改善計画を作成して取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回併設の特養と合同で開催している。毎回、検討事項に対する経過報告を行い、参加委員の意見を反映しながらサービス向上に繋げる取り組みをしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の委員として、担当者が毎回出席し、施設の課題に助言を仰いでおり、市町村との連携は、良好に保たれている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員間で毎月OJTを実施し、理解を深める努力をしている。入居時に権利擁護が必要と判断される家族に対しては、説明を行っているが、内容的に複雑であり、一度の説明では中々家族の理解に繋がっていない。</p>		<p>職員間の学習を継続的に行い、入居者が必要状態になったときに家族に情報を伝え、制度が活用ができるように支援する体制づくりが望まれます。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>OJTで取り上げたり、マニュアルを作成し、虐待防止に対する意識づけが行われている。管理者は、日頃から虐待に対する視点を強く持ち、職員の指導に当たっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に至るまでに面接等の機会を捉えて、施設生活の説明や重度化への対応できる範囲等説明して、不安解消に努めている。契約時には重要事項説明書を用いて説明し、了承のサイン・確認印をいただいている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月施設の生活の様子を載せた便りを発行している。発行時には預かり金の出納状況と領収書を添付し、一緒に家族に送付している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見を面会時等で問いかけたり、必要時には随時電話連絡し、苦情・不満を確認している。意見や要望等は全職員が受け止め改善に努めている。又、家族にも運営推進会議に参加をお願いして要望等を出してもらい、交流の場面を多く持っている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に留めるよう運営努力をしている。異動があった場合、入居者への報告は直截に行わず、会話を通して目先の変更を支援し、安定を確保している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は全職員が平等に研修参加出来るように工夫している。ユニットケアで人員配置にも比較的余裕がある事から、研修の機会も確保出来ている。内部でのOJTも定期的に関催し、資質向上に努めている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は同地区のグル-プホ-ムの運営推進委員として活動して情報や意見交換を行い、客観的に自施設を振り返り、気付きの視点を高め、サービスの向上に尽力している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族には入居前の事前見学や、併設特養の短期入所利用で適応を支援する等、職員とのなじみの関係を構築出来た上で入居に繋げている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活歴を把握し、入居者の得意分野や体験に裏打ちされた作業等に積極的に参加してもらうよう場面設定している。日々の暮らしの中でそれぞれの役割分担が出来上がっており職員も野菜作りを学んだり、入居者と共に支えあう体制が出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、入居者から出される希望や要望を聞き取り、職員間で情報を共有し、可能な限り実施出来るよう支援している。内容によっては随時話し合いを持ち解決している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>隔週でケ - ス検討会議を開催している。家族からは事前に電話で意見や希望を聞き取り、計画に反映させている。不参加の職員も、記録の呈覧で全員が確認出来る体制になっている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月2回ケ - ス検討会議を設けて、定期・随時に介護計画の見直しが行われている。見直しの際は、家族の意見や要望を十分に取り入れて介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>特養と併設しており、看護体制やりハビリ面での協力体制があり、活用している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。施設の協力医を受診させる場合は、本人及び家族の同意を得た上で受診している。</p>		<p>職員が認知症ケアに対応するために、適切な指示や助言をしてくれる専門医等認知症に詳しい医師との連携が大切ですが、現状では難しい状況にあるようです。今後の課題として連携を図る等の取り組みを期待します。</p>
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>職員の意識としては、家族からの要望があればターミナルケアまで行いたいという方針を確認し、共有している。今後の対応としては、指針を整備し、対策を構築する方向である。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居時の重要事項説明で本人・家族に個人情報の説明やプライバシーの確保について説明している。施設内に写真を掲示しているが、名前は付けられておらずプライバシーに配慮している姿勢が伺える。職員の言葉かけは、一人ひとりを尊重している優しさや雰囲気・態度が感じられた。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のタイムスケジュールは決められているが、入居者の希望や状態を優先し、臨機に変更が可能であり、午後の余暇活動は入居者の意見で決定している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや咀嚼能力に合わせ食事を提供している。野菜の下拵えや片づけ等も自発的に行われている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴が確保出来ている。今後は入居者から夜間や毎日入浴等のニーズがあれば、職員の体制を整備して個々の希望に応じて行く方針である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活の中で培ってきた能力を発揮してもらい、農業に携わってきた入居者には、野菜の植え付けや管理をお願いしている。収穫後は献立に取り入れて皆で食べたり、裁縫の得意な入居者には雑巾縫いを行ってもらったりする等、有用感を持って生活出来るよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望に応じて随時散歩に出かけたり、外出の場面を持って、閉じこもりを防いでいる。		買い物等随時入居者からの希望があった場合には、職員体制の見直し等外出可能な支援体制が望まれます。



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>OJTを通して学習し、職員間の意識統一が出来ている。身体拘束マニュアルも整備しており、職員が禁止の対象となる項目等を正しく理解している。拘束の場面は無い。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>常に入居者の行動を察知できるように声がけをしており、施錠はしていない。施設内のセンサ - で、入居者の動きを確認出来るよう工夫している。自己の身体機能を自覚出来ない入居者がベッドから転落しないように、ベッドに腰掛け足を降ろし着地すれば反応する介護マットを設置し、安全に配慮している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の立会いの元、年2回避難訓練を実施している。地元住民の参加は得られていない。</p>		<p>地域の協力体制を得る為の一つの方法として、防災協力員を委嘱する等の取り組みを期待します。</p>
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設の特養の栄養士が献立を作成しており、カロリーの確保は出来ている。又、個々の一日の間食や補水時の摂取量がわかるように記録している。咀嚼力の低下、嚥下障状態に気を配りながらも盛り付け等も工夫している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>基本的には手洗い・うがいの励行で感染予防に努めており、感染対策のマニュアルも作成されている。又、実務では、まん延が予測される時期に合わせ、入居者・職員共インフルエンザ予防接種を行う等、対策を講じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内は採光に優れ、ソファが置かれ思いおもいに休息出来るように環境整備されている。廊下は広く段差は無く、随所に手摺りが設置され、安全面へ配慮している。浴槽は段差が大きく、身体機能の低下している入居者の利便性には課題があり、又職員の介助負担も考えられる。</p>		<p>浴槽の段差が大きいため跨ぎの動作が大きくなり、危険が予測される為、安全・安楽に利用出来るように工夫が望まれます。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と一緒に写真を飾ったり、入り口に暖簾を掛け家庭的な雰囲気を醸し出している。家具等自宅からの持ち込みもあり、個々に居心地よく過ごせるように配慮した居室になっている。</p>		

 は、重点項目。